

環境再生と復興に向けて、次のステージへ

除染により生じた大量の除去土壌や汚染廃棄物をどうするか、この技術的な問いかけに対しては、今年3月にこれまで約10年間かけて進めてきた技術開発戦略の成果の取りまとめが行われ、今後に向けて減容化の程度に応じた4つのシナリオが示された。次のステージは、除去土壌の復興再生利用を実践的に進め、並行して2045年までの県外最終処分完了に向けて4つのシナリオのうちでどのような選択をしていくのかを、最終処分場所をどのように決めていくかそのやり方等の検討とともに、国民に問いかけながら議論していくステージに入る。同時に、現在の間貯蔵施設やその周辺エリアの復興について、廃炉問題との関係も含めて真剣に議論していく段階になっている。福島県の被災エリアの復興、県外での最終処分や再生利用、そして廃炉の問題等が、それぞれ切り離された形で議論されるのではなく、それぞれの主体がどのような責任をもってリスクと便益の社会的衡平な解を見出していくのか、私たち社会に問いかけられている。

本企画セッションでは、環境再生と復興の次のステージに向けて、社会としてどのように考え意思決定していくべきなのか、今後に向けた論点を全体俯瞰しながら、国の行政動向、学術の研究開発動向を確認したうえで、一緒に考え議論したい。

開催日時：8月28日（木）、9:45～11:45

会場：コンベンションホール

開催方法：会場とオンライン（Zoom）のハイブリッド方式（オンラインは聴講のみ）

（1）講演 ※タイトルはいずれも仮称

進行：環境放射能除染学会理事長 大迫政浩

① 基調講演

「環境再生・復興に関する全体俯瞰からの今後の論点」

東京大学名誉教授・国立環境研究所元理事 森口 祐一

② 行政講演

「環境再生・復興に係る国の取組み動向」

環境省 環境再生・資源循環局 参事官 中野 哲哉

③ 学術講演

「中間貯蔵施設周辺地域の融合的な環境再生・環境創生研究」

国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 室長 遠藤和人

（2）総合討議

上記講演者